

青がつなぐもの

~高麗青磁と古代海洋交易~
으로 잇다 ~고려청자와 고대해양교역~

古来より東アジアでは、海路を介して様々な交流が展開してきた。

中国大陸に律令国家が成立した古代、海路の主役は日本の遣隋使・遣唐使のような国家が派遣した外交使節だった。しかし、東アジアの中心であった唐の国際的影響力が、相次ぐ反乱によって揺らぐと、国家を直接の背景としない海商たちが海路を行き交うようになる。その中には陶磁器のような物を運んだ人々もいれば、製陶などの技術を伝えた人々もあり、各地にその足跡を残していた。

今回の展示会では、日韓の遺跡から出土した貿易陶磁器や、朝鮮半島からの技術的な影響が見られる資料を通して、日本と朝鮮半島を結んだ古代海洋交易の実態を探る。

I 清海鎮から鴻臚館へ

9世紀には古代国家の中央集権の体制が弱まり、自立的な海商の活動がはじまる。日本・唐・新羅の海洋交易を掌握した清海鎮大使 張保阜の活動を軸に、古代の海洋交易で商品となった陶磁器や、商人の活動拠点と考えられる遺跡を紹介する。

[主な展示資料]

韓国側資料：清海鎮遺跡出土資料(画像)
日本側資料：福岡県：鴻臚館跡出土資料(画像)

III 南へ

朝鮮半島と北部九州の間でおこなわれた交易は、南九州やさらに南の琉球列島へと繋がっていく。人と共に動いた陶磁器や技術が、この地域にどのような影響を与えたのか考える。

[主な展示資料]

日本側資料：鹿児島県：芝原遺跡、市頭A遺跡出土資料
宮崎県：筆無遺跡・大島畠田遺跡出土資料

II 唐房と博多綱首の時代

11世紀後半、交易の場は博多へ移り、唐房と記される宋商人の居留地が成立し、彼らは綱首(船主)として海を往来した。宋商人が運んだ陶磁器と共に、莞島沈没船から引き揚げられた資料を通して、11世紀から13世紀の海洋交易について紹介する。

[主な展示資料]

韓国側資料：莞島沈没船・三興里古窯址出土資料(画像)
日本側資料：福岡県：博多遺跡群出土資料(画像)

IV 海の道の博物館

今回取り上げた遺跡や資料を見ることができる日韓の博物館、史跡について写真を用いて紹介する。

[紹介を行う博物館・史跡]

韓国：国立羅州博物館、国立海洋文化財研究所、
国立光州博物館、扶安青磁博物館、
康津高麗青磁博物館、張保阜記念館、
清海鎮遺跡
日本：福岡市博物館、鴻臚館跡

2020(令和2)年度 展示会年間情報

特別展

国宝馬具とその時代

2020(令和2)年
10月3日(土)～12月6日(日)

金銅製馬具 レプリカ
(伝・西都原古墳(百塚原古墳群)/西都市)

企画展II

古の匠たち

～考古資料に見る技巧と造形美～

2021(令和3)年
1月9日(土)～3月14日(日)

三業環頭大刀・小刀
(伝・持田26号墳/高鍋町)

